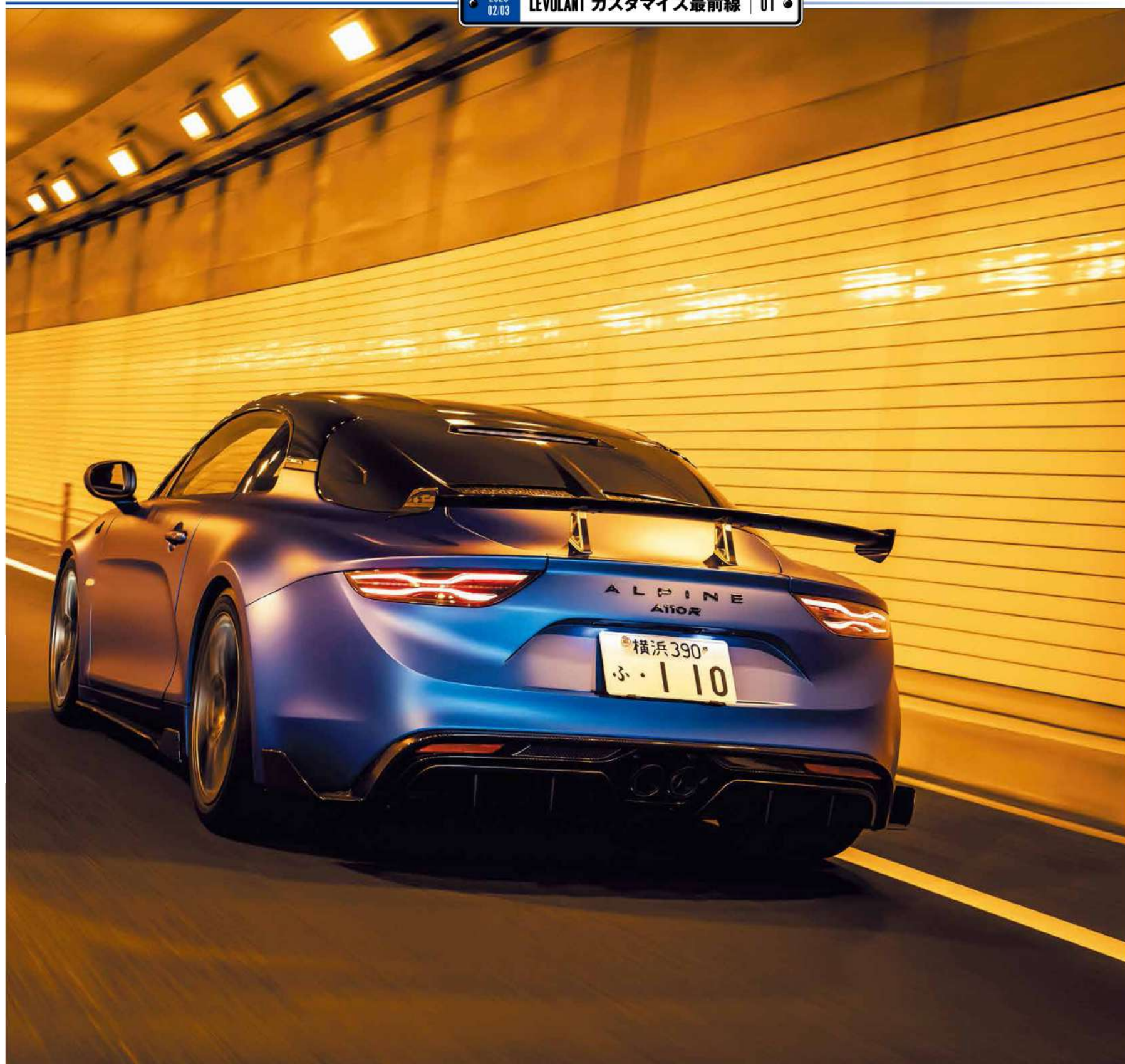




ALPINE A110 R TURINI

アルピーヌA110

パフォーマンスパーツで、さらなる“刺激”を——
理性が、本能を究める。

リポート=中三川大地 フォト=中島仁葉 report:D.Nakamigawa photo:N.Nakajima

これはまるでアルピーヌ自身が製作したチューニングカーにして、アルピーヌにおける「レーシングとストリートの橋渡し役」である。なおかつ世界各国の一流パーツメーカーが積極的にコラボし、彼らが有する最高峰の技術で、その走りをより研ぎ澄ませている。

O.Z ESTREMA FORGIATA ALPINE A110

「アルピーヌとのパートナーシップは、我々がモータースポーツで志とともにする伝統を讃える証であり、何よりも性能の理想像を追い求めて挑戦を続ける姿勢を示すもの」と、オーゼット・レーシングのOES兼プロダクトマネージャーを務めるサミュエル・セガラは言う。「常にベストアンサーを送り出すモータースポーツ部門は、アフターマーケットとの距離も近い。同じエンジニアがモータースポーツもアフターも携わり、同じ技術と情熱を持って製品に落とし込む」と、レース部門を牽引するアンドレア・ベルノーニ氏と、製品開発を担うダヴィデ・シヴィエロ氏は口を揃えた。つまりはF1やWECなどで活躍するエンジニアが描いたホイールを、愛車に履かせることと同義である。



O.Z S.p.A
OES / Product Manager
Samuel Segalla



O.Z S.p.A
Head of Racing Business
Andrea Bernoni



O.Z S.p.A
Technical Department
Development Engineer
Davide Civiero



公道に舞い降りたレーシングカー

「自動車開発は、1kg、1gを落とすのに相当な技術と努力、そしてコストが必要です。我々の強みはその重量を落とせること。核技術である「チタン」は軽量かつ強靱であり、薄肉化できるからこそ軽量設計が可能となる。環境対応性能への対応をしながら内燃機関を延命させていくために、マストな技術だと考えています」

北欧スロベニアに生まれ世界最高峰のエキゾーストブランドへと昇華したアクラポヴィッチの、創業者であるイゴール・アクラポヴィッチ氏の言葉を思い出す。元来、ライトウェイトスポーツカーとして設計開発されたアルピーヌA110に対して、メーカー自身がモータースポーツで得たノウハウを惜しみなく取り入れ、さらに軽量化を突き詰めた。もちろん、足まわりのリ・セッティングやボディ

補強、空力性能向上などの対策も抜かりがない。全方位的に辛口に、ライトウェイトスポーツカーとしての魅力を引き立てたホットモデルがアルピーヌA110 R TURIN（チューリニ）だ。

それは普通に正規ディーラーで取り扱っているとは思えないほどに、最近出会ったあのチューニングカーよりも「チューニングカー」に似ていた。ボンネット、ルーフ、リアパネルはF1カーボンに置き換わり、さらに同様の素材でフロントスプリッター、サイドスカート、スワンネックマウントリアスポイラー、リアディフューザーなどのエアロパーツが盛り込まれている。これで車両重量はわずか1100kgに抑えられた。

確かに、街乗りするには気合いが要るだろう。サベルト製フルバケットシートに腰を下ろし、6点式シートベルトで身体を固定する。カーボン製リアパネルによって後方視界がゼロなのでルームミラーはなく、後方視界はサイドミラー頼りだ。もはや街中でレーシングカーを転がしているような感覚に陥る。しかし嫌な気分ではない。何かのアトラクションに挑むように、気分を昂らせてくれる。

元来、スポーツ志向だったSと比べても、車高はさらに10mm低くなり、前後とも10%スプリングレートをアップ。ZF製の車高調整式減衰力可変ダンパーの採用によるものだ。さらにスタビライザーの剛性はフロント10%、リア25%



スワンネックマウントリアスポイラー、リアディフューザー、サイドスカート、フロントスプリッターなどの効果により、A110 Sエアロキットに比べて最大29kgのダウンフォース量と5%の空気抵抗低減を獲得した。リアウィンドウはカーボン製リアフードに置き換えられている。



本文で記したパーツメーカー以外に、ブレンボもアルピーヌA110に寄り添っている。アルミモノブロックキャリパーと320φのバイメテリアルディスクローターはブレンボ製だ。制動力と耐久性の高さが謳われるが、荷重移動を容易にするリニアなブレーキタッチが印象的だった。



ダッシュボードやドアトリム、センターコンソールサイドなどがマクロファイバーで覆われる。カーボンシェルを使ったフルバケットシートはサベルト製。そこに6点式のシートベルトが標準装備される。

AKRAPOVIC TITANIUM EXHAUST SYSTEM

「モータースポーツの世界は性能がすべて。我々はそれを追求するブランドです。しかしロードカー用となると、環境対応を含め法令遵守するのは大前提。さらに“心地よいサウンド”が重要です。好きな音楽でも、安いスピーカーと最高峰のオーディオシステムとでは、耳に届く印象がまるで違うでしょう。我々は音量（ボリューム）がもたらす迫力に

頼らず、音質を追求する。同じ音量（デシベル）でも、不要だと思えるノイズを消して、心地いいサウンドだけを耳に届ける特別な技術を持っています」と、'25年の東京オートサロンを訪れたキーパーソンたちが、性能のみならず“音質”についての考え方を教えてくれた。それはスロットルを踏み込むたび、“実感”として筆者の耳を魅了させた。



Akrapovic d.d.
Sales and Training Manager
Marko Magdic

Akrapovic d.d.
Area Sales Manager
David Breclj



最高峰のサードパーティーが走りをもさらに研ぎ澄ませます

も強化され、タイヤはセミスリックのようなミシュラン・パイロットスポーツカップ2へ。街中を転がすぶんには、ダンピングの強さを訴えかけてくる。しかし速度域が上がれば、挙動は落ち着き、すっきりとしたステアリングフィールと路面に吸い付くような安定感味わうことができる。ライトウェイトかつミッドシップらしい挙動変化を楽しむのであれば、標準モデルのほうが敷居は低い。これは20段階の減衰力調整機能がつく足まわりのセッティングをアレコレ悩みながら、サーキットを走りたくなるクルマだ。

この刺激に満ちた走りを、さらに色濃くしてくれるサードパーティーがいる。パフォーマンスパーツと名付けられた製品群で、冒頭で

触れたアクラポヴィッチによるタニウムエキゾーストシステムと、そしてO.Z（オーゼット）レーシング製造ホイール「オーゼット・エストレマ・フォーリアータ・アルピーヌA110」だ。

オーゼット・レーシングとアルピーヌは、'80年代からモータースポーツフィールドで事あるたびに手を取り合ってきた。昨今の例では、WECハイパーカークラスに参戦するアルピーヌA424に使用されるレーシングホイールはオーゼット・レーシング製である。そのレーシングホイールを開発する部隊そのものが、今回のロードカー用も担当した。生産体制もまた然り。最高品質の軽量アルミ合金による鍛造ビレットを基に、レーシングホイールと同じセオリーで切削加工して成型される。そうした意味ではまさにレースフィード直系のホイールだ。

アクラポヴィッチもまた同じ。冒頭のイゴール・アクラポヴィッチ氏自身がオートバイレーサーであり、常にモータースポーツとともに成長してきた。このタニウムエキゾーストシステムの重量はわずか8.2kgで、純正比で13.5kgを達成した。もともと軽量ボディであり、さらにミッドシッブカーらしい前後重量バランスを突き詰められるという意味でも効果は大きいはずだ。

これらパフォーマンスパーツの装着前後での差異まで確かめられたわけではない。しかし、ホイー

ルでいえば、レーシングホイールを感じさせる無骨にして繊細な造形美に始まり、足もとに何もついてないような軽やかさ、そして手に取るように伝わる剛性感。エキゾーストシステムでいえば、芸術品のように美しい仕上げや、管楽器のように澄んでいながらどう猛さも秘めていて、つい聴き惚れてしまうような快音。など、その魅力は鮮明に伝わってきた。

A110 Rチュリニというモデルと、これらのパフォーマンスパーツは、モータースポーツの場で技術を磨きあげ、なおかつ世界最高峰のパーツメーカーと結んだ絆の証である。それは「優れたスポーツカーで走ること」という人間の快楽にして、本能を、最先端のエンジニアリングという、理性で究めた結晶でもある。パワートレインの電動化が間近に迫るなかで、アルピーヌが放った開き直りの精神すら感じる。

「私たちのエンジニアは、BWTアルピーヌF1チームと協力して、レーシングカーをストリートで走らせることを実現しました」とアルピーヌは述べている。モータースポーツを軸に置きながら、一流パーツメーカーと手を取り合って稀有なパッケージを成立させたアルピーヌの矜持を感じさせる、最高にクールな言葉である。



ALPINE A110 R TURINI SPECIFICATION

全長×全幅×全高=4255×1800×1240mm ■ホイールベース=2420mm ■車両重量=1100kg ■エンジン種類=直4DOHC16V+ターボ/1798cc ■最高出力=300ps(221kW)/6300rpm ■最大トルク=340Nm(34.6kg-m)/2400rpm ■トランスミッション=7速DCT ■サスペンション(F:R)=Wウィッシュボーン:Wウィッシュボーン ■ブレーキ(F:R)=Vディスク:Vディスク ■タイヤサイズ(F:R)=215/40R18:245/40R18 ■車両本体価格(税込)=16,100,000円 ■問い合わせ先=アルピーヌ・ジャパン ☎0800-1238-1100 <https://www.alpinecars.jp>